

あゆみ通信

VOL. 140

あゆみの会(真宗大谷
派大阪教区第2組同朋
の会推進協議会)
会長 浪花 博
広報 本持 喜康

如来より賜りたる信心

「源空が信心も、如来よりたまわりたる信心なり。善信房の信心も如来よりたまわせたまいたる信心なり。されば、ただひとつなり」(「歎異抄」)

この言葉をとおして親鸞は、信心とは、自分の知恵や能力によって得られるものではなく、私たちをあわれむ阿弥陀仏の大悲によって開かれる、真実に目覚めた心であることを確かめたのであった。



(視点)
アメリカの海兵員、ト

ナム戦争に出兵したアレン・ネルソンは、帰国後、戦場で目にした殺戮や暴力、そして自らも人を殺した光景が記憶の中によみがえり、とうとう心の病にかかってしまった。

そんな時、「子どもたちにベトナム戦争の体験を話してほしい」と、ある小学校の4年生の教室を訪れた。

ところが子どもたちを前にしてネルソンは、自分がしてきたことや目にしてきたことをありのままに語る事ができなかった。すると、教室の前に座っていた女の子が、次のように質問した。「ネルソンさん、あなたは人を殺しましたか」

ネルソンにとって、このことこそ、自分が忘れてしまいたいことであったため、何も答えることができないまま、しばらくの間、その場に立ち尽くした。汗が体中から吹き出し、さまざまな思いが頭の中を駆け巡り、目を開けることもできなかった。そして、気が

付くと、つぶやくように「イエス」と答えていた。

その時、苦しそうなネルソンを見て質問をした女の子が彼をやさしく抱きしめ、目に涙をいっぱい浮かべながら、次のような一言を口にしたのである。「かわいそうなネルソンさん」その瞬間、ネルソンの目からも大粒の涙がこぼれ落ちた。自分の過去を呪い、絶望の中で生きてきたネルソンにとって、一人の少女の涙は、自分を無条件で包み込んでくれるやさしさとの出会いであった。それによってネルソンは、悪人の自分をごまかさずに受け止めて生きていくことのできる獲得したのである。

「如来よりたまわりたる信心」とは、自分を無条件に包み込んでくれるやさしさである、阿弥陀仏の大悲に目覚めることによって、自ずから開かれる「真実に目覚めた心」のことである。(「親鸞・生涯と教え」東本願寺出版部から)

所長巡回開催

2020年8月21日(金) 午後5時から、夕陽丘の光照寺(墨林浩組長)で、大阪教務所大町慶華所長他、別院職員を迎え、第2組から住職、門徒会、あゆみの会役員が参加して開催。まず、佛足寺の清水真一前住職と前坊守さんの表彰を行った後、大町所長や教区職員から、宗派の教区事業の現状と事業報告がされた。



あゆみの会総会 決まる

コロナ禍の1年でしたが、総会を開催します。

あゆみの会設立道場であった即應寺のご協力で、また未熟な我々を根気よくお育ていただいた藤井善隆先生の記念法話をいただきます。

日時 2020年12月13日(日)

午後1時30分開会

会場 即應寺

内容 総会(事業報告、会計報告、事業案、予算案、役員選出と記念法話)

講師 藤井 善隆先生

(即應寺 前住職)

その他

2021年年会費(2000円)を受け付けます・

3密を避けて、ソーシャルディスタンスを守り、開催します。体調のすぐれない方や、不安のある方は無理されませぬように。

何が起こるか、分からない

今年に入り、コロナウイルス感染拡大という疫病のおかげで、すべての当り前であったいろいろが無くなり、仏法聴聞という大事な聞法の方があらゆる所で無くなったという現実、右往左往した。

さらに、私事であるが情報発信の要のパソコンがウイルスに感染してシャットダウンし、データーが吹っ飛んだ。

修理に出したが作業に大事なワードやエクセルが消えて、仕方なく購入し、再入力してもらったが、メールのアドレスが無くなり、あれこれ、ソフトを再度入れてもらい、再出発に悪戦苦闘して、こわごわの作業をしだしている。

「あゆみ通信」発行の所思は、情報の伝達はもちろん、法話を聞いたままにせず、縁ある仲間と聞法の喜びを分かち合いたいと願い、ただ、編集しているだけのこと。

これからもよろしく。(本)

第2組これからの行事日程決まる

今年当初から、思いがけない新型コロナウイルス感染拡大に伴い、一切の仏事、聞法会が中止され、ああでもない、こうでもないという悩みながら、いろいろ模索しながら今日を迎えましたが、やっと3密が徹底し、会場の設備も何とかめどがついてきましたので。2020年7月15日(水)午後6時からと9月14日(月)午後6時から、光照寺において第2組教化委員会が開催され、これからの日程が、以下の通り確認されました。

2020年

●第2組 報恩講

日時 11月12日(木) 午後2時
会場 即應寺
内容 お勤めと法話、門徒総会
講師 藤井 善隆先生
(即應寺 前住職)

参加費 500円

(注) コロナ禍の関係で、お斎はありません。

2021年

●第2組同朋大会

日時 3月6日(土) 午後1時半
会場 難波別院山門
4階会議室

(大阪エクセルホテル東急)

内容 お勤め、記念法話

講師 釈徹宗先生

(池田市如来寺、相愛大学)

参加費 1000円(記念品有)*

*講師：釈徹宗先生紹介



釈 徹宗先生

さらにはお寺裏の一軒家で地域の認知症高齢者のグループホームを運営。著書には「いきなり始める仏教生活」など、多数ある。

報恩講に憶う

10月を迎えて、報恩講の季節が来る。真宗門徒の一年は、報恩講に始まり報恩講に終わると言われる。今こそ、親鸞聖



一楽 真先生

人の教えに帰ろう。(本)

「私、仏教に出会って元気をもらいました」先日、一人の女子学生がいきいきと語ってくれた。若い学生からの言葉に、かえって私のほうが元気をもらった。勝ち負けばかりが取り沙汰される世の中につかれていたなかで、釈尊や親鸞聖人の言葉に触れて、今までと違う世界が開けたという。

確かに世の中を見渡すと、一つのものさしで物事を計る風潮がなっているように思う。役に立つか立たないか、得をするか損をするか、それはまた「いのち」をものさしで計ることにもつながっている。優れているか劣っているか、生きている価値があるかないか、と。そんな中で悩みを抱えて苦しんでいる人がますます増えているように思う。

。仏教は基本的に言葉との出会いに始まる。自分の中でモヤモヤしていたことが言い当てられたり、自分の抱えていた問題を明らかにしてくれる言葉に出会ったとき、それまで見えなかった視界がぱっと開ける。同時に、今まで自分の思い込みにとらわれて、身動きが取れなくなっていたことも知らされる。言葉は、人間の闇を照らし出す灯火である。

長い仏教の歴史は、このような言葉を語り伝えてきた歴史である。もちろん、言葉だけが独り歩きしてきたわけではない。人をおして伝えられてきた。「南無阿弥陀仏」と念仏申す声が、「南無阿弥陀仏」を今日まで伝えてきたのである。「南無阿弥陀仏」

に生きる人の姿によって仏法の灯火は私たちに届けられているのである。

仏法の灯火のもとに集い、人に出会うことができる場が法座である。悩みが一つもないという人はまれであろう。しかし、自分だけが悩んでいると思いついでいる人は多い。人との出会いをとおして、何を大事に生きていくか、どんな者として一生を終えていくか、次世代に何を遺していくのか、お互いに語り合い、確かめることができる場、それが仏法の座である。

蓮如上人の教えを聞きぬいた越中赤尾の道宗は、次のような言葉を残している。

一日のたしなみには、あさつとめにかかさじと、たしなめ。一月のたしなみには、ちかきところ、ご開山様の御座候のところへまいるべしと、たしなむべし。

一年のたしなみには、御本寺へまいるべしと、たしなむべし。(「蓮如上人御一代記聞書」)

朝の勤行をとおして親鸞聖人の教えを聞かせていただく。これが毎日のたしなみ、つまり心がけることだという。また、月に一度は御開山様(親鸞聖人)おられるところに集うことをたしなみとせよという。そして年に一度は御本寺(御本山)に参ることを心がけとしたのである。この言葉は寄り合い、語り合うことを勧めてくださっているように私には思われる。法を聞くのも自分の都合で聞くのではなく、同行の姿、語り掛けを通して聞くことが肝要だとのお勧めである。

今年も御本山での報恩講が勤まる。全国から多くの同行が集まってこられる。そのお姿と熱気に励まされながら、これからの一年、いや一日一日、自分がどのように歩んでいくかをたしかめたい。(一楽真「報恩講」2008年パンフより)

